



RIKEN KEIKI

2026年3月期 決算説明資料

2026年5月

理研計器株式会社

証券コード：7734

免責事項

本資料に記載されている当社の将来の業績に関する見通しは、現時点で把握可能な情報から判断した仮定および所信に基づく見込みです。経済動向や市場需要等の不確実性を含んでいることから実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がございます。



経営理念

理研計器グループは

「人々が**安心して働ける環境**づくり」

を永久のテーマとして社会の発展に貢献します。

沿革

1939

理化学研究所の研究成果を「光波干渉式ガス検定器」として商用化する企業として設立

1961

東京証券取引所第二部に上場

1972

(株)理研計器奈良製作所設立

1995

東京証券取引所第一部に上場

2008

フラッグシップとなる可搬型ガス検知器「GX-2009」発売
半導体工場向け定置型ガス検知部「GD-70D」発売



2009

中国子会社として理研計器商貿（上海）有限公司設立

2015

開発センター開設
(埼玉県春日部市)



2017

北米RKI子会社化

2018

シンガポールRKAP子会社化

2019

可搬型ガス検知器「GX-3R/GX-3R Pro」発売

2020

生産センター竣工
(埼玉県春日部市)



■ 売上高の推移

1939 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020



決算の概要

2026年3月期 通期

業績の概要 (2026年3月期)

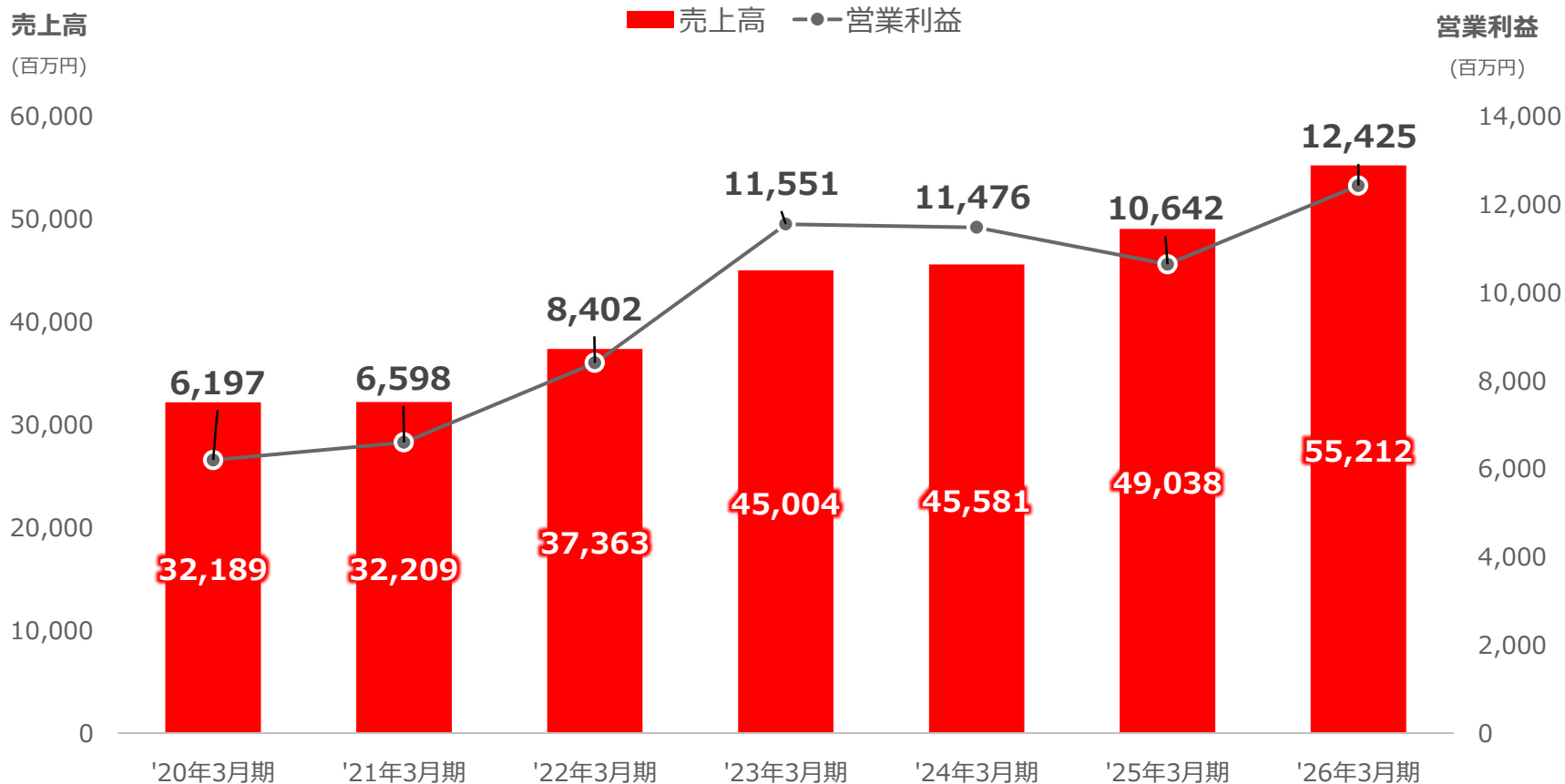
- 国内は更新案件や工事案件を多く獲得したほか、北米や中国向けへの海外売上高が増加したことにより売上高は前期比で12.6%増加
- 営業利益率は、人件費や部材価格の高騰、原価率の高い工事案件の増加といった押し下げ要因があったものの、生産性の向上やコスト上昇を踏まえた販売価格の見直しにより改善

(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期			
	通期実績	通期実績	前年同期比	通期予想	達成率
売上高	49,038	55,212	112.6%	52,000	106.2%
営業利益	10,642	12,425	116.8%	12,000	103.5%
営業利益率	21.7%	22.5%	-	23.1%	-
経常利益	10,830	13,443	124.1%	11,800	113.9%
当期純利益	8,007	9,957	124.3%	8,600	115.8%
1株当たり当期純利益(円)	172.10	217.32	-	187.21	-
1株当たり配当金(円)	45	55	-	50	-

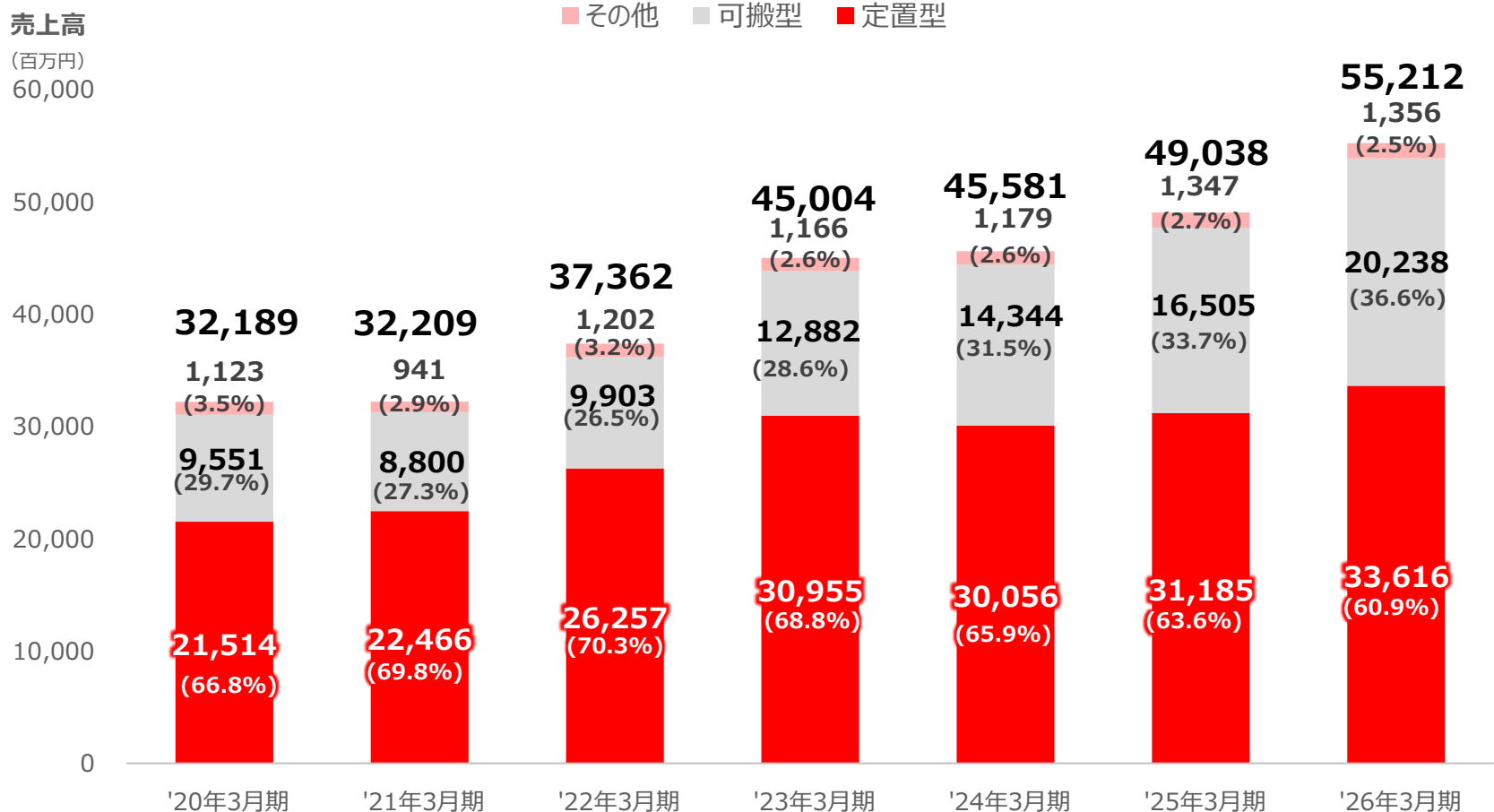
売上高および損益推移（通期）

- 国内の工事案件の増加に加え、北米および中国向けの販売が伸長したことにより、売上高は前年同期比で増加
- 前述のとおり、生産性の向上や販売価格の見直しなどにより営業利益が増加



機種別売上高の状況（通期）

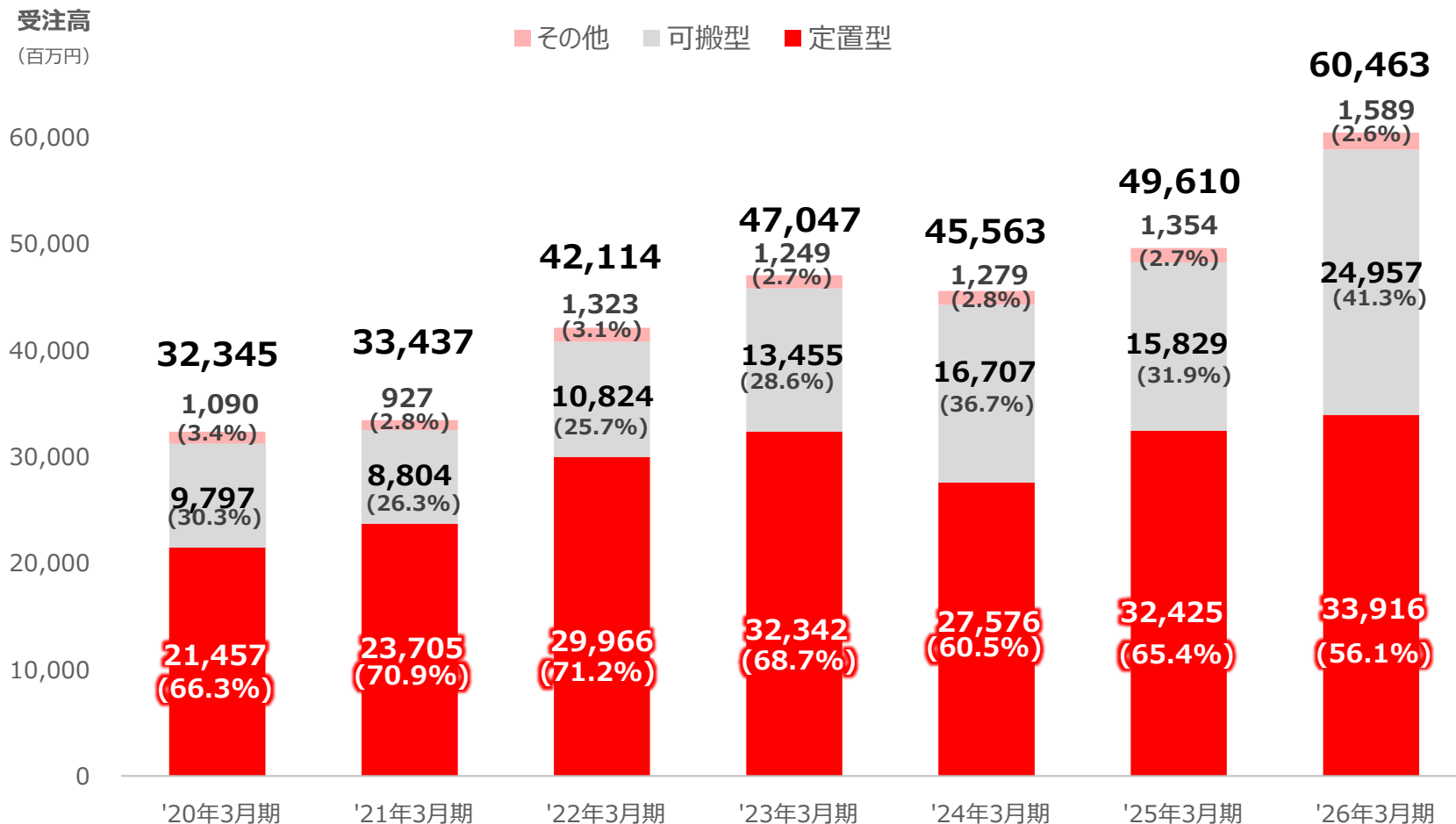
- 定置型検知器は、国内半導体業界における工事案件およびメンテナンス案件の増加に加え、中国向けの販売が伸長したことにより、売上高は微増
- 可搬型検知器は北米における幅広い業界向けの販売が伸長したことにより、売上高は増加



※端数を四捨五入しているため売上高合計に対する構成比の合計は100%にならない場合があります。

機種別受注高の状況（通期）

- 半導体業界向けを中心に、定置型検知器の受注高が微増
- 海外向けに継続的な受注を獲得できたことにより可搬型検知器の受注高が増加

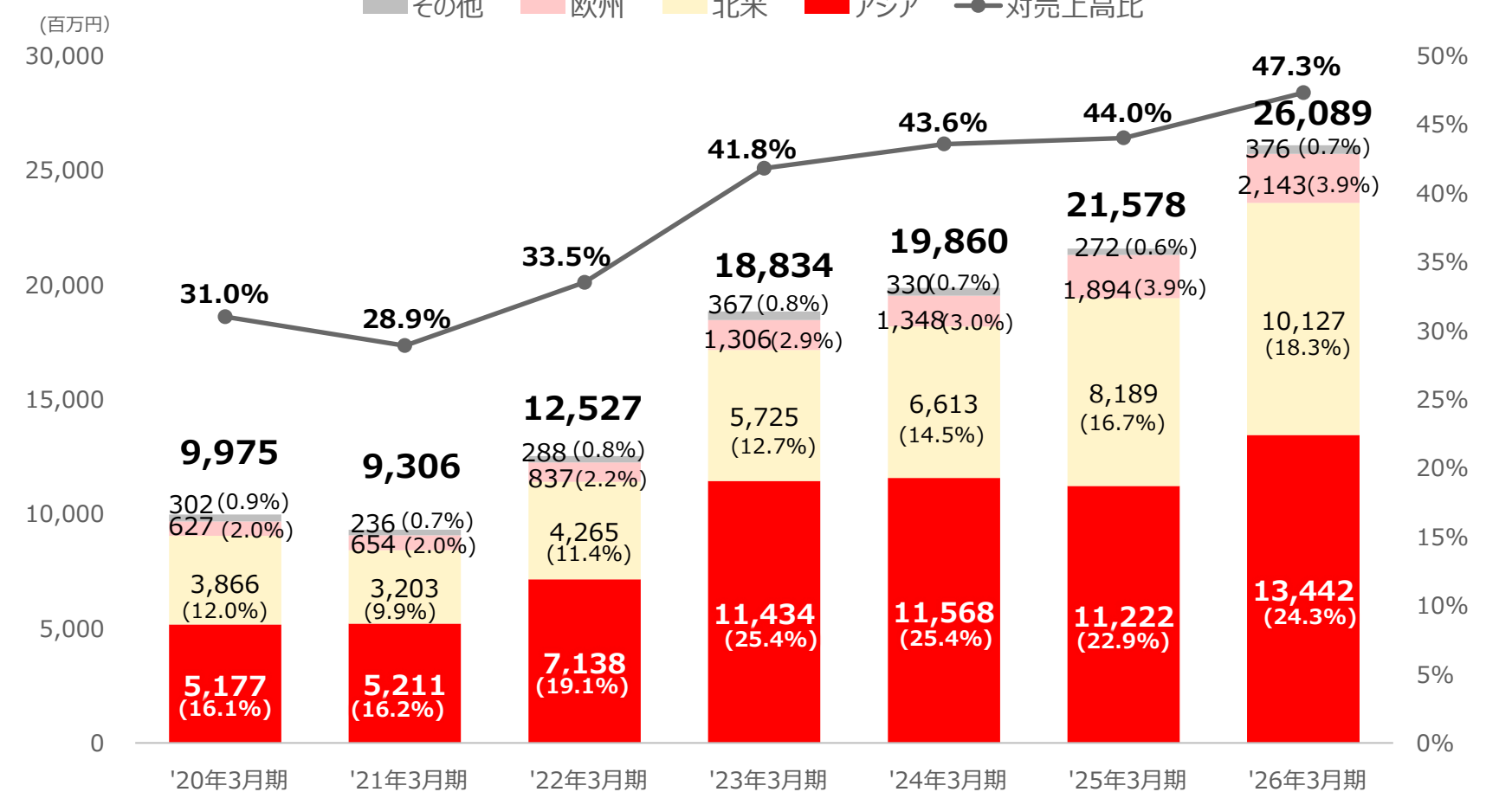


※端数を四捨五入しているため売上高合計に対する構成比の合計は100%にならない場合があります。

海外地域別売上高の状況（通期）

- アジア地域は中国の半導体業界向けの販売が増加したことにより、前年同期比で売上高が増加
- 北米地域は可搬型検知器の販売好調が継続し、前年同期比で売上高が増加

地域別売上高



※四捨五入のため対売上高比の合計は合致しない場合があります。

※2026年3月期第4四半期より、地域別売上高の集計方法を変更しております。なお、本変更により、地域別売上高の内訳は従来と比較して変動しております。

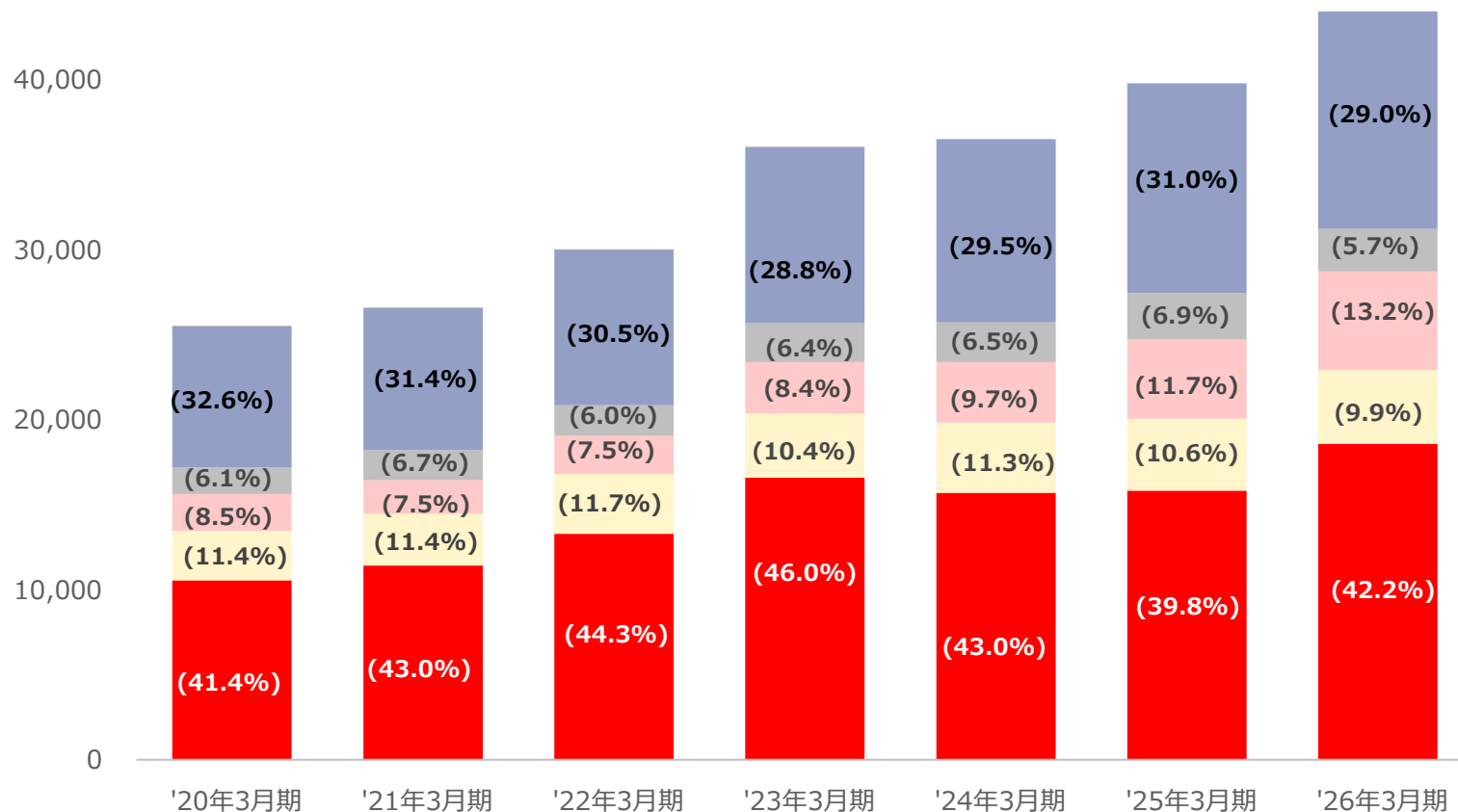
業界別販売の状況（単体・通期）

- 国内の工事案件と中国向け製品販売の増加により、電気・半導体業界の販売比率が増加

業界別売上高

(百万円)

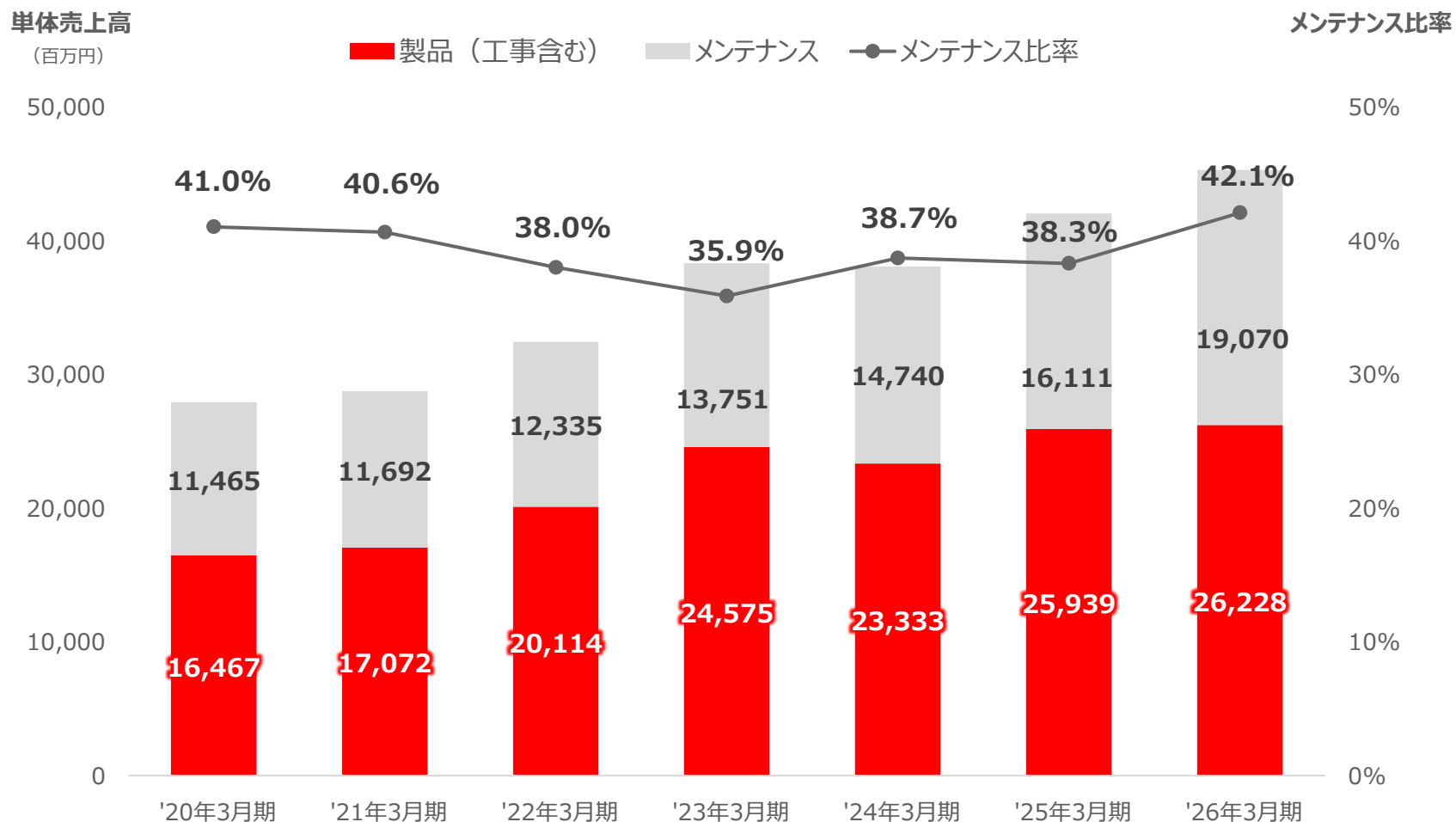
■ その他（官公庁・鉄鋼・自動車・電力・建設など多種） ■ 船舶 ■ ガス ■ 石油化学 ■ 電気・半導体



※端数を四捨五入している構成比の合計は100%にならない場合があります。

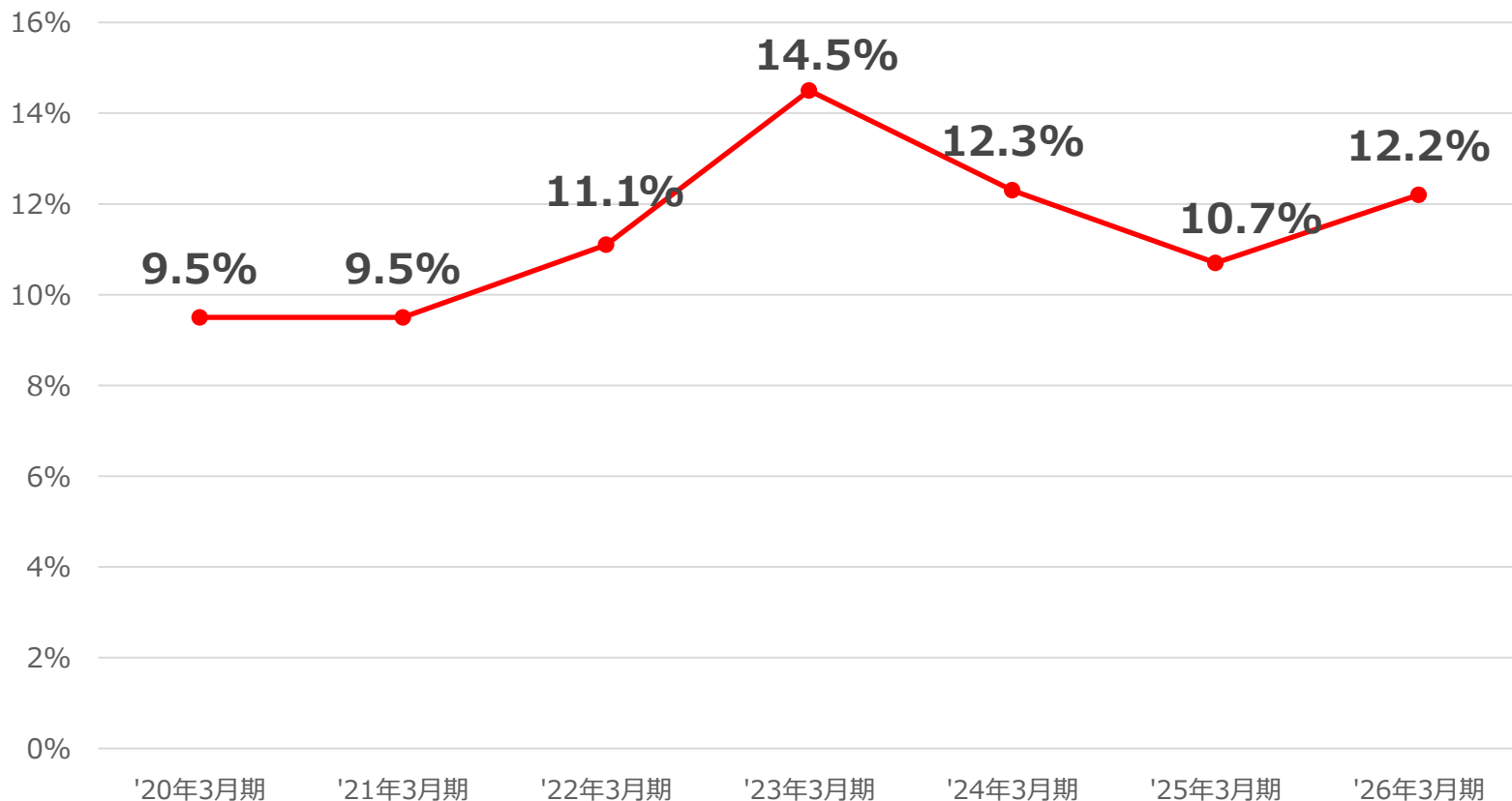
製品・メンテナンス売上比率推移（単体・通期）

- 国内の工事案件が増加した影響により、前年同期比で製品売上高は微増
- 海外向けのメンテナンス需要の増加により、メンテナンス比率は40%を超過



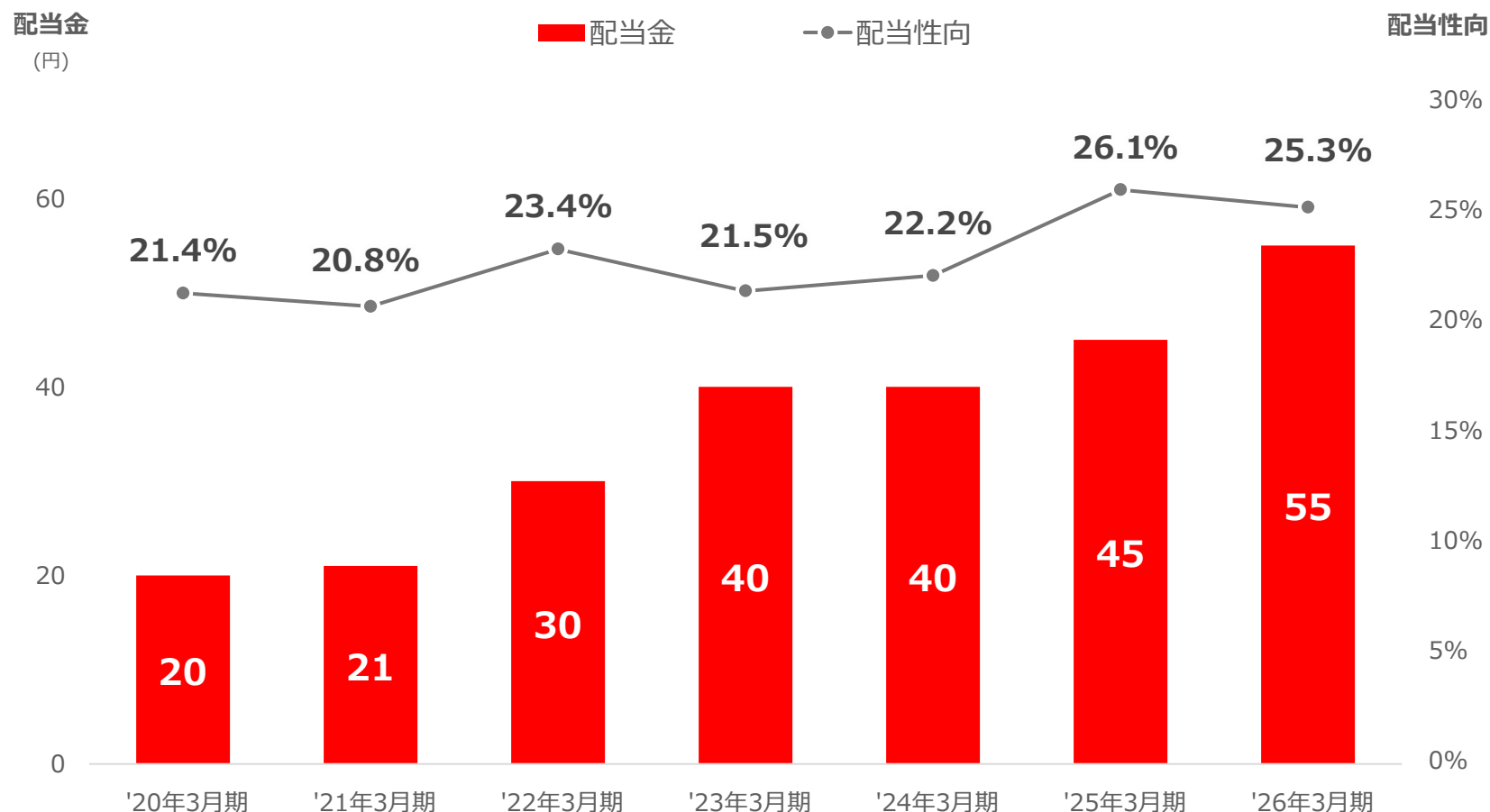
ROEの推移

- ROEは純利益の増加に伴い、12.2%と前年比で1.5ポイント増加



株主還元施策・配当性向

■ 前年度比で10円増額の1株あたり55円の配当



※2024年4月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。株式分割前の情報につきましては、該当年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期配当金額を調整しております。



2027年3月期 業績予想

業績予想（2027年3月期）

- 半導体業界において生成AI・データセンター向け需要の拡大を背景に投資が活発に推移するほか、北米を中心に幅広い需要も継続すると想定されることにより、売上高は拡大する見込み
- 持続的な組織の実現に向けた投資や海外シェア拡大に向けた価格戦略により、一時的に営業利益は落ち込む見込み

(百万円)

	2026年3月期		2027年3月期	
	第2四半期(累計)実績	通期実績	第2四半期(累計)予想	通期予想
売上高	26,997	55,212	29,500	60,000
営業利益	5,516	12,425	6,200	12,700
営業利益率	20.4%	22.5%	21.0%	21.2%
経常利益	5,805	13,443	6,300	13,000
当期純利益	4,147	9,957	4,500	9,600
1株当たり当期純利益	90.28	217.32	99.00	211.19
1株当たり配当金	25	55	30	60